

**「生活作文の書き方教室」掲載作文使用条件**

① 「生活作文の書き方教室」（以下「本サイト」）掲載作文の著作権は放棄しておりません。使用条件に同意した場合にのみ使用できます。

② 本サイトの作文は、学校（小学校および中学校）提出に限りその使用を認めます。

③ 本サイトの作文を使用し、何らかの問題が発生しても、本サイトおよび管理人は一切の責任を負わないものとし、すべて使用者の自己責任で対応するものとします。

④ 本サイトおよび作文に関しては、苦情とうは一切受け付けません。

⑤ 何かしらの問題が発生する可能性がある場合、判断した場合、使用は中止してください。

⑥ 本サイトの作文を他サイトへ転載することは厳禁です。

⑦ 本サイト掲載作文への直リンクは厳禁です。

以上



に「基本」と書かれてあったものを選んだ。  
 算数が苦手なのだから、基本から勉強をし  
 直さなければならぬ、そう思ったからだ。  
 家に帰って、勉強を開始した。基本問題を  
 解いてみたが、けっこう難しい。自己採点を  
 してみると、五十五点しか取れなかった。  
 そのとき母が部屋に入ってきた。  
 「できた？」  
 と、聞いてきた。僕は正直に答えた。  
 すると母が  
 「四年生のドリルを買ってきて、そこから勉  
 強し直しなさい」  
 と、言った。  
 下の学年の勉強をしなければならぬなん  
 て、恥ずかしかつた。  
 「算数はできなくなったところまで戻って勉  
 強しないと、できるようにはならないのよ」  
 とのことだった。  
 しかし、恥ずかしいとか言っていられない。  
 算数を苦手なままにしてはいられない。もう

一度本屋さんに行つて、下の学年のドリルを買つてきた。

家に帰つて算数の勉強を始めた。

下の学年のドリルなので簡単だった。自己採点をしたら八十五点だった。間違つた問題をもう一度解いたら正解した。

それから毎日四ページずつ、算数ドリルで勉強した。満点はなかなか取れなかったが、八十点以上は取れていた。

下の学年のドリルでも、正解するのは気持ちがいい。算数を勉強するのが少し楽しくなつた気分だ。

ところがある日、五十五点しか取れなかつた。●●だった。

そういえば、四年生のころ、このあたりから算数がつまらなくなつたような気がしたのを思い出した。

算数ができなくなつた原因が分かつた。

「ここからきちん勉強をすれば、算数が苦手ではなくなるんだ」と思うと、やる気が出

てきた。去年使った算数の教科書を本棚から持ってきて、勉強をし直した。しかし、何度も繰り返し教科書を読んだ。「繰り返し読めば分かるようになるよ」と、父の言葉を信じて、勉強を続けた。すると、あれほど分からなかった問題が急に理解できるようになった。何で今まで解けなかったのか、不思議に思えた。例えて言うならば、初めて自転車に乗れたときのように、苦手だった逆上がりができたときのような感覚だった。一度できればもう二度と間違わなかった。そろそろ夏休みも終わりになる。四年生の算数はほぼ理解できた。一学期に習った範囲も半分くらいは分かるようになった。残りの範囲が理解できるようになると、算数が苦手でなくなる。そう考えるとうれしくなった。